

第3回 銚路市宿泊税に関する懇談会 議事要旨

1 日 時 令和6年8月15日(木) 午後3時00分～4時00分

2 場 所 銚路市役所 防災庁舎5階 災害対策本部室

3 出席者

(1) 委 員：小磯座長、内間木委員、吉田委員、関川委員、東委員、松岡委員（WEB参加）
小林(真)委員（WEB参加）

(2) 銚路市：秋里副市長、菅野総合政策部長、大坪財政部長、冷川観光振興担当部長
・都市経営課 阿部課長、田中担当係長、菅野主査、波多野主任
・財政課 成田総括係長、河辺主査
・市民税課 宮川課長、館総括係長
・観光振興室 鈴木室長、滝本総括係長、岡田主査、真坂主任
・阿寒観光振興課 杉崎課長、宮下総括係長、柏木主査

4 内 容

(1) 開 会

(2) 副市長挨拶

(3) 議事事項

・資料「第2回懇談会でのご意見等について」「宿泊税の基本的な考え方」に基づき、事務局より説明。

＜質疑・意見交換＞

※冒頭、事務局から欠席委員からの意見を紹介（別紙：「欠席委員からのご意見について」）

- 小林(道)委員
- ・税率については、一律200円の設定で問題無い。
 - ・課税免除について、スポーツ合宿は、制度が複雑となることも理解するが、長期間連泊するため、免除していただきたい。
 - ・使途について、移動利便性の向上は適切。空港から阿寒湖への移動や阿寒湖から他のエリアへ移動するバスの充実は重要。
 - ・A Tについても、重要な考え方であり、特にガイドの育成については、育成後にどのように地域に定着させるかが重要。
- 奥山委員
- ・第2回、第3回で示された市の考え方には異論は無い。
 - ・税率について、一律200円の設定は理解しやすい。
 - ・使途について、移動利便性の向上は適切。DMOの体制強化については、地域には事業規模が小さく自発的に魅力を発信できていない事業価値を持った中小零細企業も多く、このような地域の観光資源の発掘や再発見の観点で重要。
 - ・課税免除については、合宿を免除とした場合、制度が複雑となることや、市税を免除しても道税が課税されるケースもあることから、修学旅行での線引きは妥当。
- 吉田委員
- ・わかりやすく市民も概ね理解できる制度だと思う。使途も明確になった。
 - ・何かを変えるときには、プラスの部分をPRする事が重要。税を導入するというマイナスのイメージとならないように、クラウドファンディングのように、自分の払ったものがプラスになるといった説明が重要であり、広報に力を入れていただきたい。
 - ・現在、商工会議所青年部で「笑えるくらい涼しいまちくしろ」をキャッチコピーにPRを行っており、JALの機内アナウンスで取り上げられるなどの反響がある。「宿泊税導入」という固い言葉ではなく、やわらかい言葉で発信していくことは有効であり、「宿泊税導入のお願い」ではなく、使い道を周知するポスターを作成するなど工夫が必要。

- 内間木委員
- ・課税免除については、複雑になると確かに運用側で負担となるので仕方ないと思う。支援策について期待したい。
 - ・使途については、重点項目の設定である程度目に見えるようになったと思う。実際の運用にあたっては、何に使うのか、さらに目玉となるようなものはあったほうが良い。使途の実績としてPRできるような使い方をしていただきたい。
- 関川委員
- ・宿泊事業者の立場からは、運用のしやすさの点で理解する。合宿は賛否があるが、説明をしっかりした上で、一定の線引きが必要ということは理解する。一方で、地域にとって合宿の宿泊者は大切であり、使途の中でどのような対応ができるのか、合宿を扱う宿泊事業者にも理解が得られるようにしていただきたい。
 - ・使途については、重点項目の設定で見やすくなったと思う。一方で、市街地の事業者の立場からはATの推進が必要とは理解するが、市街地側での理解を得るには、市街地でのAT以外のコンテンツの発信が必要。例えば食なども発信した方が良い。
 - ・その中で、DMO、DMCの強化は重要。市街地にもDMCが必要とも感じる。まずは現状のDMOの強化を軸に細かい施策も進めていただきたい。
 - ・宿泊事業者の組織体がないことも改めて課題に感じる。今後、進めていかないといけない。
 - ・運用について、基金に積み立てることは重要。あとは理解が進むよう発信していただきたい。
- 東委員
- ・税率について、200円の一率定額制は受益と負担の観点から適切。
 - ・免除については、税金はかけた人が負担するとは限らない。財政学では、宿泊税導入で宿泊者が減った場合、本来は入るべき税収が減ったわけではなく、宿泊者が減ることで宿泊事業者に税負担が転嫁されたと考える。
 - ・大会、合宿については制度が複雑となるが考えることも必要。ただし、合宿で免除という事自体が経済行動に影響を与える。本来合宿目的でない方が合宿と主張して免税されるケースも想定される。そういう意味で中立ではない制度となる。難しい問題だと感じる。何か良い支援策を検討していただきたい。税の転嫁は税の費用であり、税収のメリットと宿泊者が減るデメリットのどちらが大きいかで免税は検討すべき。
 - ・使途について、わかりやすくなったりと思う。観光振興のために税負担を求めるることは、わかりやすい。観光振興のための公共サービスにはお金がかかる。消費単価で高付加価値の考えは素晴らしいが、域内調達率について、消費単価が増えても域外に流れるともったいないと思う。その点は気になったところ。
- 松岡委員
- ・市の考えに概ね異論は無いが、合宿については残念に思う。複雑となる点では納得せざるを得ない部分はある。阿寒湖のスキー合宿は高校生も多い。何とかしてあげたい思いはある。支援策で負担が少なくなるようにしていただきたい。
 - ・旅館組合でも概ね異論は無いとのこと。宿泊者がわかりやすい制度で、わかりやすい使途となるようお願いしたい。
- 小林(真)委員
- ・使途について、移動の利便性について説明があったが、釧路市中心となっていた。観光客にとっての移動利便性の観点では、公共交通機関との接続性を高めることが重要。JRとバスなどの接続は重要。以前、観光立国ショーケースの時に英語圏と中国圏のSNSの投稿の分析を行ったことがある。その際、一番大きい不満は公共交通機関の利便性の低さだった。

- ・観光客の移動はレンタカーが中心だが、公共交通機関を使う方もいる。レンタカーを使えない中国の方もいる。そういう方の利便性向上は満足度向上につながる。
- ・釧路市だけでは無く、道東全体での移動利便性という観点で釧路市がリードを取れるような活用ができると良い。

○小磯座長

- ・市の考えの基本的な部分は、概ねご理解いただいた。合宿の免税については、基本的には合意をいただいたが、前提として合宿誘致の足かせになってはいけない。使途の中で支援策を明示し、合宿誘致政策そのものは前向きに支えていくことが重要。
- ・ポイントは使途だと考える。今の段階で完全に明確にすることは難しいが、訪問される方が納得して負担できるような仕組みとするためには、使途は重要。
- ・使途①「受入環境の充実」については、前回の論点にもなった2次交通の問題。この地域の観光施策の大きな課題であり、以前から議論してきている。実証実験的な取組等、もう少し踏み込んだ形で2次交通対策を進めた方が良い。大きなポイントは広域性。道東地域の公共交通の利便性向上としては、道東全体で考えなくてはならない。釧路市がリードしていくことが重要。そうすることで、使途としてのわかりやすさにつながる。
- ・先ほど吉田委員からあったように、「笑えるくらい涼しいまちくしろ」の取組は私にも問い合わせがあった。市につないだが、長期滞在ビジネス研究会のHPを見るしかなく、満足度は高くなかった。これも受入環境の充実のひとつ。長期滞在者の受け入れ体制を強化することでメッセージの発信につながる。
- ・使途②「地域資源の磨き上げと魅力向上」について、消費単価に着目してアドベンチャートラベルを挙げているが、釧路市の観光の政策目標は域内調達率の観点も重要であり、これまで釧路市観光振興ビジョンでも取り組んで来ていが、今回の使途では見えて来ない。もう少し釧路の食に着目した使途があっても良いと考える。
- ・使途③「持続可能な観光地づくり」については、DMO、DMCの体制強化を重点項目としているが、重要なのは市としての観光政策を強くすること。そのためには観光政策データの充実強化が重要。ヨーロッパ等の観光政策では観光データが充実している。釧路市は観光振興ビジョンの政策目標を経済波及効果としていることからも、この機会にデータの充実に取組むべき。例えば、インバウンドの消費単価は独自のものが無く、国のデータを使っている。是非この機会にデータを収集してみてはいかがか。そういうものが強いメッセージになり、納得出来る使途となると考える。

○吉田委員

- ・交通については、空港から釧路市内へのバスが現金しか使えない事は課題と感じる。ここをキャッシュレス化するという取組はわかりやすいのではないか。空港で現金しか使えない街は残念な印象を与える。最初の使い道としてはわかりやすいと考える。満遍なく使うことも大切だが、使途をとがらせていくことも重要。
- ・また、宿泊者のうち、出張で来訪する方は多いと思う。出張者からするとATはなかなかない。例えば、湿原や環境の切り口は出張者でも扱いやすいと感じる。

○小磯座長

- ・空港のキャッシュレス化の重要な点は、観光地であることに加えて釧路市の玄関口である点。ゲートウェイとして、空港周辺の道路整備などを重点的に進めてきた過去がある。使途としても大事な観点。

- 内間木委員
- ・使途について、食の部分は重要だと感じる。毎年度検討することなので、都度検討してもらいたい。柔軟に使うことも大事だと感じた。
 - ・観光データについて、市では宿泊施設から入込を出しており、観光圏では調査をしているが、市内観光施設でのインバウンドの割合等は取っていない状況であり、施策に繋がらない状況。マーケティングとしても必要であり、全市的にインバウンドの把握を進めてもらいたい。
- 小磯座長
- ・インバウンドデータはこれからの観光施策の中で重要。インバウンドの観光消費の独自調査はほとんど無く、国のデータを活用している状況。言葉の障壁はあるが、是非独自の調査を実施していただきたい。インバウンドの実態を把握することは重要。
- 吉田委員
- ・インターネットで宿泊予約し、宿泊料金を事前決済した場合、宿泊税は現地決済となるケースもある。その場合はより税負担を感じると思う。例えば、フロントでパンフレットやバッジなどインセンティブを与えれば負担感は緩和されるのではないか。パンフレット作成のような使途も良いと考える。
- 関川委員
- ・データの取り方について、ホテルでは国別にデータ化している。本来は各事業者が戦略として取り組むべきと考える。ただし、大小様々な施設があり、できていない施設もある。地域として宿泊施設でデータを取る手法もあると感じる。データ収集と併せて徴収する仕組みとなれば宿泊施設の理解につながる。
- 小磯座長
- ・ヨーロッパでは、宿泊事業者のデータは公共インフラとの考えがある。観光地として釧路市が発展していくために重要な観点。ATを進めてきたが、観光消費を高める考えであれば食のメッセージは重要。使途については引き続き議論しながら整理していただきたい。
- 小磯座長
- ・これまで、市の提案について基本的な考え方を了解いただいたということで良いか。
(全員了解)
 - ・市には、社会状況、北海道の状況を受け止めながら、釧路らしい宿泊税の提案となるよう、整理していただきたい。また、懇談会で出た各委員からの意見については是非尊重して進めいただきたい。
 - ・道内で様々な動きがあり、また総務省との協議もある。今後、その過程で調整が出てくる可能性があり、その場合には座長に一任いただきたい。
- 秋里副市長
- ・各委員には貴重なご意見をいただき感謝申し上げる。税という負担感があるものだが、釧路市の観光施策のステージを上げていくためのプロセスであり、観光データの充実は非常に重要であると感じた。観光政策のグレードを上げていく必要がある。データを活用して、根拠を持って策を展開し、釧路市が素晴らしい地域といわれるよう進めて行きたい。

(4) その他：今後のスケジュールについて、懇談会議論は一旦終了。令和8年4月の導入を目指し、市としての検討を進めて行く。

(5) 閉　　会